

---

# にじ

海月くらげ

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
にじ

【Nコード】  
N1303I

【作者名】  
海月くらげ

【あらすじ】  
わたしがスッチーになった理由。  
飛行機に乗らなければ。理由はわからないけれど。

## （前書き）

スッチーはスチュワードのことでした。今はもうCAになりましたが。

古い作品ですが、当時そのままの文章です。

「なーなー。虹ってさー飛行機から見ると地平線がないから真ん丸に輪を描いて見えるらしいぜ」

「へー」

「なんだよ素っ気ねえな。あーホントかどうか確かめたかった」

「ふーん」

「あ、そだそだ。あんたたぶん帰れる組だからさ、俺の代わりに確かめてきてくんねえ？」

「めんどくさい」

「そう言わずにさーせっかく仲良くなった仲だし！」

「微妙な日本語使うね…」

「な！」

「そして話を聞かないと…」

「あ、でもこっちでのことは帰ったら忘れちゃうか」

「・・・覚えとく」

「えっ？」

「虹を確かめる」ってことだけは根性で覚えといてあげる」

「マジ！？それじゃ俺はあんたがまたこっちに来たとき聞きに行くよ！！約束な！！」

未だに何で自分がここにいるかわからない。

飛行機が好きってわけでもないし、スッチーと呼ばれる職業に憧れを抱いたわけでもない。

サービス業が性にあってるわけでもないが、苦痛も感じないので続けていただけだ。

なりたいたいも思っていなかった職業になるために将来設計を大変更したのは高2の夏。

野球部が打った球が勢い良く後頭部に激突し、当たりどころが悪かったために昏睡状態のまま生死の境を彷徨った三日目の朝。

目を覚ました私の第一声が「飛行機に乗らなきゃ」だったことから始まった。

目覚めた瞬間から動きだそうとする私を両親と医者と看護師総出で宥めすかし、鎮静剤をぶすつと射って寝かしつけたらしい。

二度目に起きた時、当の本人であるわたしはその時のことを一切覚えていなかった。

無論、なぜ飛行機に乗ろうと思ったのかも。

だが、その後も時折ふいに飛行機に乗らねばならない気がする事が多々あり、旅行の時に初めて乗った時は最初から最後まで窓にかじりついて外を——空を見続けた。

なぜか飛行機に乗りたがる割には飛行機自体ではなくそこから見る空に固執するわたしを見かねた友人の一人が「スチュワートでもなれば？いつでも空を飛んでいられるよ？」と、冗談混じり

に言ったのをまにうけたわけでもないが、わたしはその通りになった。

そして、現在。

「お客さま、お席にお着きになってください！」

「落ち着いてください！」

自分で言っていて何だが、落ち着けるわけがない。

この飛行機は、落ちているのだ。

数分前、突然の轟音とともに機体が激しく揺れ、右の羽根が火を吹いた。

体内の不快感から高度が急激に下がっているのがわかる。

ああ、わたしはなんでここにいるのだろう。

泣き叫ぶ乗客、気丈に振る舞う同僚、すべてを意識の外に吐き出して――わたしはせまい窓から空を見た。

機内の阿鼻叫喚とは関わりなく先程までの雨を残してやや潤んだ空。

美しいと思うのは最後だからか。

本来なら雲一つない澄んだ空を好むのに。

自分の役目を放棄して、それでも望んだものは何だったのだろう。

そして、雲が切れ、日が地面に光を放つ。

泳ぐ瞳がふいに空のある一点をとらえた。

涙がこぼれる。

知らずのうちに笑みを浮かべる。

ああ、やっと――

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1303i/>

---

にじ

2010年10月16日02時08分発行